

REHACARE 2014 国際介護・福祉機器展
ドイツ・デュッセルドルフ
2014年9月24日～27日



REHACARE 2014 : 例年以上に活気のある雰囲気で開催
高まるモビリティ製品への注目



51,250名の業界関係者やユーザーを集めて開催された今年のREHACAREは、例年通り高齢者や身体障害者のための専門見本市として開催されたが、よりイノベーティブな製品群や、最新の関連情報、サービスが発表され、多くの参加者にメリットを提供した。

介護や福祉における現在の中心的な問題の1つは、高齢者や障害を持った人々が、どのような福祉機器や介護によって、自立した日常生活を送ることができるようになるかである。4日に亘って開催され、9月27日に終了した国際見本市REHACARE 2014では、この問題について様々な提案やアイデア、議論が取り交わされた。51,250人を数えた介護、福祉、リハビリに関する関係者や、福祉機器等のエンドユーザーやその家族たちは、36か国から出展参加した902の出展企業・団体が展示したイノベーティブな最新の機器や製品、テクノロジーを体験するため、有益な新情報の収集やメーカーとの意見交換をするために来場した。前回のREHACARE2013のビジター数は43,500名。同じテーマとして比較できる前回偶数年の2012年は51,00名だったため、今回は来場者が微増となった。

今回のREHACAREのポジティブな傾向の理由を、主催者メッセ・デュッセルドルフの取締役、J.シェーファーが次のようにコメントした。「高齢化社会、長寿社会による介護問題の増加、高齢者の自立した生活や社会参加への要望は、介護福祉機器産業の発展を促すものです。国内外の多数の関連製品を出展者がここでプレゼンしましたが、特に行動範囲を広げるのに必要な“モビリティ”には注目が集まりました。メーカーである出展企業はこの分野の成長を見込んでいます」

REHACARE 2014の出展者は来場者増加を歓迎した。福祉・介護機器の大手であるINVACARE社は今回の出展でも、同社の重要なパートナーである販売関係者との新規コンタクトの開拓やミーティングに力を入れ、出展自体を高く評価した。



日本からは 5 年連続での出展である(株)加地が、今回も高機能 GEL 素材ケア製品の欧州販売を目的に出展し、次のようにコメントした。「5 回目の出展で、当社の認知度向上をこれまで以上に実感できるようになった。集客も良好で多くの商談を行い、また欧州の既存ディストリビューターともコミュニケーションを深めることができた。来年も引き続き出展し、欧州での安定した販売網の構築に努めたい」

そういった出展者の製品の購入、輸入、調査を目的に REHACARE に来るドイツ国外からの来場者は 40 を超える国から約 8,100 名となり、輸出指向の企業には重要なターゲットとなった。

その来場者の大きな関心を寄せる製品の中心は、移動をサポートし、促進するパーソナルモビリティ関連だ。来場者の約 50%は一人乗りの移動機器、歩行器、福祉車両や車いすなどへの高い興味を示し、同 25%は自動車メーカーやモビリティ関連、機器改造メーカーのブースを訪問。同じく 20%は「バリア・フリー建築」関連の出展者ブースを訪問した。

また、高齢者、要介護者の増加における「地域コミュニティのあり方」をテーマとした REHACARE のコンGRESSも注目を集めた。会期中の 9 月 24 日、25 日に、高齢者に適した持続可能な生活環境に関する 7 つのレクチャー・シリーズを始め、50 に及び発表が、400 名の参加者のもと開催された。障害を持つ人々のためのケアに関する REHACARE フォーラムや、在宅介護をテーマとしたフォーラム “Living with Care @Home” も多数の来場者を惹きつけた。

会場で行われたビジター・アンケートの結果も REHACARE 2014 の評価は大変高く、96%が「満足」と回答した。

次回 REHACARE は 2015 年 10 月 14 日～17 日にデュッセルドルフで開催される。

REHACARE に関する日本でのお問い合わせは：

(株)メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン 担当：服部

Tel.03-5210-9951 Fax.03-5210-9959

mdi@messe-dus.co.jp <http://rehacare.co.jp>